

時に人権ネットワークが最優先

小野 清美

人権ネットワークに私が関わりをもつことになったのは、私が清水建夫法律事務所で働かせていただいていたからです。たまたま事務所にいた人間だったというところが、今の状況をなんとか打開しなければとの悲痛な思いや、高い志をもって入会された会員の皆さんとは「動機」がないという点で大きく異なっていて、ずっと申しわけないと感じてきたところです。

当初の人権ネットワークは弁護士さんや福祉関係の専門職の方もたくさん参加されていました。当時の日本は障がいをもつ人が施設や家庭内に閉じ込められていた現実があり、参加されていた皆さんは、施設内での虐待から障害をもつ人を救いたい、等しく人権をもつためになにをすべきか、差別や偏見をなくしたい、統合教育、障害者の社会参加のためには、等々を熱心に議論し、そのための講演会、啓蒙活動をどう行ったらよいかを真剣に語り合っていました。「障害」「障碍」「障がい」、「擁護」などの言葉の使用についても同じく意見交換がさかんになされていました。

これらの白熱した議論の傍らで、ただお手伝いとして参加していただけの私には、どこか遠いところの、無関係な話しのよう感じられて、ネットワークのやるべきことや、やっていることさえよく理解できていなかったように思います。

しかし、そんな人権ネットワークの片隅にいる落ちこぼれの私でさえ、とても強く印象に残っていることがあります。

はじめの頃の人権相談窓口は、特定の相談日を設け、弁護士さん、施設職員の方などが待機し、架かってくる電話にその場で回答するという形をとっていました。ある相談日のことした。相談の内容も、男女の別もわかりませんが、電話を受けられた施設職員の相談員の方が、言葉に詰まった相談者の電話を、相手の方が言葉を発することができるようまで、じっと、じっと、辛抱強く待っているのです。十分だったか、二十分だったか、とにかく私にはとてつもなく長い時間を感じられました。しかし、相談員の方から電話を切ろうとはしませんでした。ただただひたすら待っていました。ここに電話を掛けてこられたのは困ったことがあるから、何とか楽にしてあげたい、そんな思いが自然に伝わってきました。相手を尊重する、本当の優しさとはこういうことだと私の胸に落ちました。

退会されましたが、徳田多鶴子さんが事務的なことのほとんどを引き受け、事務所にもよく見えて会報作成、講演会のテーマ、講演者へのお願い、準備などを入念にして下さいました。NPO法人の法人格取得をいち早く提案されたのも徳田さんでした。福祉関係に疎く、障害関係の勉強をしていない私が徳田さんから学んだことはとても多かったと思います。もっともっと積極的に学ぶ姿勢があつたら、私も少しは皆さんのお役にたつ存在になれていたに違いないと時々反省しています。徳田さんの後を引き継いだにわか事務局の私は理事の皆さんや馬鳥さんの助けを得て、何とか役割を果

たしています。当初格調高かった会報も平易になりすぎて雑誌のようになってしまったのではないかとこちらも申しわけなく思います。

それでも会報は現在78号を数えます。会報をしっかりと読んで下さっていて感謝です。感想を伝えて下さる方が多いことにも驚いています。

今回記念誌作成にあたり、ネットワーク主催で行ってきた講演会や学習会、演奏会などを時系列に並べてみて、足跡の大きさにびっくりしました。まさしく「継続は力なり」です。

あちこち旅行にも行きました。屋久島は前理事長の平田さんが移り住んだ島で、屋久杉が圧巻でした。白谷雲水峡がバリアだらけで、みんなで車椅子を担いで歩いたことがついこの間のことのようにです。平田さんご夫妻にあちこち案内していただき、連れて行っていただいたおそばのおいしかったこと。

講演していただいた今は亡きあまほろさんが暮らす佐渡に出掛け、あまほろさんと晶子さんに案内して頂いた酒蔵、能楽堂。お祭りに飛び入りさせていただき、民家に入りこみ食事をごちそうになったこと。

まだまだ足腰も強く元気だった両親三人と参加させていただいた石和温泉旅行。

父が又行きたいと大喜びだったハワイアンズ旅行。

楽しい音楽会も何度もありました。北田さんのピアノライブ、関守先生や大槻ほのかさんのサポートを得て、超さん、源さんが演奏してくださったキーボードやピアノ、、折田さんのオカリナの演奏会もありました。ジャズライブは好評で、タクトが満杯になりました。

熱心に活動に加わってくださっていた会員の中に残念ながら他界された方もいらっしゃいます。調布福祉園にお子さんがいらっしゃると月例会にほぼ毎回参加して下さった葛生さん、佐渡でお世話になったあまほろさん、障がいをもつ人の商品を扱っていた鎌倉の「朋」の遠藤さん、私が三日に一度は電話をかけていつも助けていただいた理事の馬鳥さん。お会いできなかったけれど、いつもいつもお母様の壺早苗さんとともにあった春代さん。みなさん、ネットワークは皆さんの志を胸にがんばっています。高いところから見守ってください。

仕事の一環としてお手伝いを始めた人権ネットワークですが、大好きな人、尊敬できる人、お手本にしたい人がたくさん加わって下さっていて、時に私は事務所の仕事よりもネットワークのことを優先してしまうことがあるくらいです。私は事務局でいられることを、「得しているな、幸せだな」と感じています。勿論私が事務局のお手伝いを続けて来られたのは、本体である銀座通り法律事務所が働きやすい、人間関係のよい事務所であることが大前提です。ネットワークに関わらなければお会いできなかった皆さん、私や私の子供たちの人生を豊かに膨らみを持たせて下さり、ありがとうございます。90歳を過ぎてなお現役ばりばりの壺さんをみなさんと共に目標にして、人権ネットワークが長く続くよう頑張っていきたいですね。皆さん、これからもどうぞ宜しくお願い致します。